

「きずな」

国府台女子学院小学部 1年 関 遥花

ことし、へいせい二十三ねん三月十一日、とうほくちほうで大しんさいがありました。じしんがあったとき、わたしはようちえんのかえりのバスのなかでした。わたしは、びっくりしてとてもこわかったけれど、バスのみんなとせんせいでいっしょに、ころところをあわせて「だいじょうぶー。」とか「つかまってー。」とこえをかけてがんばりました。バスについて、おかあさんにあったときギュッと、おかあさんはわたしをだきしめてくれました。わたしもおかあさんも、こわかったのと、あえてうれしくて、ないてしまいました。

その日のよる、とうほくちほうでは、つなみのひがいでかぞくやいえをなくしているひとがたくさんいました。テレビをみていて、つなみはこわいとおもいました。つなみでながされたひとが、たすかってほしいとおもいました。わたしよりも、もっとさみしくてこわいおもいをしているのに、みんなできょうりよくをして、がまんしてがんばっていてすごいとおもいました。ごはんをわけあったり、とうほくいがいのところから、あたたかいスープやおにぎりをつくりにきているひともたくさんいて、たすけあってみんなやさしいなとおもいました。

わたしもなにか、ちからになりたいとおもいました。わたしは、かぞくでたくさんはなしあいました。そして、わたしのかぞくのようふくをきふすることとおこずかいをあわせてぼきんをすることにしました。きんじょのおばさんが、とうほくのひととおともだちで、みなさんがたくさんようふくをほしがっているということです。わたしが、ようちえんのときにきていたようふくを、とうほくちほうの小さな女の子がきてくれるとおもうようになりました。おやくにたててよかったとおもいました。

わたしは、みんなのころところがひとつになれば、やさしく、なかよく、にこにこわらっていられるんだなとおもいました。そんなステキな人たちがいっぱいいて、つながついて、わたしはしあわせなきもちになりました。これからもおてつだいできることや、きょうりよくできることなどしていきたいとおもいました。

